

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300552		
法人名	株式会社 市川建設		
事業所名	グループホーム いちかわ		
所在地	福島県郡山市大槻町字北寺8番1号		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族様や地域の方との絆を大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進委員を活用して、公民館主催の地域との交流会に参加したり、住民で構成された見守り隊結成を働きかけて事業所巡回が行われ、歌謡と踊りのボランティアや小中学生の詩吟ボランティアなど受け入れ、敬老の日には小学校から便りが届くなど、地域住民と利用者は密着した交流を図っている。 安眠のために暖簾とカーテンを使用するのを始め、利用者の朝の着替え支援に対応するため、担当者の勤務内容を変更改善するなど、職員は利用者本位の支援のため積極的にアイデアを提案し、運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が理念の理解と共有し、実践に繋がっている。	管理者や主任は利用者支援に基づいた理念について朝礼で説明している。職員は日々、利用者中心のサービス提供について話し合い、笑顔の対応と利用者尊重を心がけることで、理念の共有を図り、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区主催の活動、催しに参加し、定期的に来訪するのボランティアの歌や踊りを楽しまれている。	町内会に加入し、公民館主催の活動に参加している。散歩中に周辺住民と挨拶し、近所住民による見守り隊が毎月敷地内を巡回している。歌謡と踊りのボランティアや小中学生の詩吟を受け入れ、敬老の日には小学生から葉書が届くなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、町内会等で理解して頂ける様に働きかけ、機会がある毎に説明等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一回実施し、毎回貴重なご意見を頂き、サービスの向上に努めている。	会議では利用者の現状を報告し、事業所の活動について説明している。利用者の日常生活の様子が分かるようにと、2ヶ月間の主な活動を写真で記録し、議案書に載せている。カフェの開設や地域清掃活動への参加などを提案され、取り組みを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取るよう心掛け、電話や市の窓口に出向いて相談などを行っている。	事業所開設から増設と、工事が続いたことで市介護保険課とは密接に連絡を取り合っている。利用者支援のあり方や生活保護者への支援内容、介護計画変更手続きの代行支援について相談するなど、連携した取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等により身体拘束に関する禁止行為等の理解を深め、その防止を図るケアを全職員で話し合いながら努めている。	県や市主催の研修会に参加している。参加職員は職員会議で報告し、文書を回覧して内容を共有している。2年前から事業所内部での研修を始め、重度化した利用者の転落防止のベッド柵の使用や言葉での拘束防止など、職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じ学び、徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で、知識と理解を得る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人様やご家族様との話し合いの中で理解しやすい言葉を使い、納得のいく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」の設置の他、会議・面会の際、出された意見・要望を記録に残し、職員への周知、改善に活かしている。	利用者は日々の生活の中で、家族からは面会時に、遠方の人には電話で聞いている。草むしりをさせて欲しいとの要望に、花壇を作り、パンジーやチューリップなど季節の花を植え、楽しみながら手入れできるように対応するなど反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内ミーティングで、運営に関する情報の提供や意見を聞いたり等改善に向けている。	管理者は職員会議や日常活動の中で聞いている。居室ドアのガラス窓から光が入って眠れない利用者のためにカーテンや暖簾をかけたり、容量の大きな冷蔵庫を購入したり、担当業務の内容を見直しして利用者支援に向き合う時間を増やすなど、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社からの教育や資格取得など奨励を受け、職場においては、向上心を持つための取り組みを行い、やりがいのある職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に内部研修を実施しており、知識・技能のレベルアップを図っている。また、レベルアップの向上を目指し実践者研修も受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設など訪問時、情報交換を行っている。市主催の管理者会議や研修に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの情報収集を行い、不安な事や要望を把握し、不安の解消に努めるとともに安心した生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係を大切にし、要望や意見を聞き、入居時やその後の不安を解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望を聞きながら、必要とされる支援・サービスの提供に努めている。時には、家族様のご協力を得ながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事行為への参加、一緒に運動やレクを楽しむなど、安心できる生活環境を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会に参加して頂いたり面会時やお便りで近況報告をしっかりと行っており、ご本人様を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、面会などに制限は無く、ご本人様やご家族様の希望に沿った外出が出来ている。	友人らは居室に案内してお茶を出してゆっくりしてもらい、退去時には再訪の言葉かけをしている。馴染みの理美容院には家族対応で、出来ない場合は職員が送迎したり、出張してもらうなどして継続している。お墓参りや一時帰宅は家族対応で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの生活に歌や体操、ゲーム等により和気あいあいの時間を提供出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係を大切に、相談、必要に応じた支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に、どのような意向を持ち、どのような事を要望されるかを聞き実現に向けている。	意思表示できる利用者からは直接、思いや意向を聞いている。困難な場合は本人の表情や好き嫌いの反応から判断し、家族から生活歴などを聞いて、思いや意向を把握し、本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から話を聞き、馴染みの生活が出来る様支援している。経過等については職員間の情報交換等でも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング、カンファレンス、モニタリング、申し送りによりご利用者様一人ひとりの実状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員でモニタリングを行い、結果を良いケアに活かすための意見を出し合い検討している。また、ご本人様やご家族様の意向も考慮して介護計画を作成している。	入居時に本人や家族の要望を聞き、本人の状態を見ながら介護計画を作成している。必要ならば入居前の介護計画作成者や医師の意見を参考にし、2ヶ月間試行している。状態に変化があったり、医師の指導があれば家族と相談して計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援結果記録や特別な事象記録は、その都度ケース記録に記入し、申し送りや職員間で情報を交換しながら支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変化したその都度モニタリングやアセスメントを行っている。家族様にも、その都度、意向を伺いながらサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできている。ご本人様の持っ力が発揮できる機会を設け、地区の催しに参加しながら、安心して楽しい暮らしが出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時には医療機関に必要な情報を伝えるなど関係を密にして連携を大切にしている。日頃からよい関係づくりにも努めている。	入居時にかかりつけ医の継続受診について説明している。家族対応には利用者の状態を文書で医師に情報提供している。家族対応が難しい場合、内科や歯科とも協力医師の往診で対応している。結果は家族に手紙と電話で連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常では看護職に相談したり受診や往診時にも看護師へ情報を伝える等、関係を密にして連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に必要な情報を伝えるなど関係を密にして連携を大切にしている。日頃からよい関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族様と重度化や終末期の話し合いを行い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	入居時に事業所として出来ること、出来ないことを説明している。水や食事が摂れず、点滴が必要になるなど医療行為が必要になれば入院し、終末期が近づくなどの場合は再度家族と話し合い、看取りを含めた方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて知識や実技の習得に努めている。また、消防署の指導で応急手当などの訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の全体ミーティング、避難訓練により職員は周知している。さらに運営推進会議を通して地域の方が見守り隊(5人)を結成して下さり協力体制についても話し合っている。	火災避難訓練は消防署員立ち会いで年2回実施している。夜間と昼間を想定し、通報、避難、消化などの一連の訓練を行い、講評を受けている。避難では地域住民との連携の必要性を認識している。飲料水や食料を3日分備蓄し、半年ごとに更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉掛けにも気を配り対応している。	呼びかけは名字でも名前でもさん付けを基本にしている。ちゃん付けはせず、利用者の人格を尊重している。居室へはノックし、洗濯物を入れる、薬を取りますなど、声掛けしてから入室している。利用者がいない場合にも本人に目的を説明してから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思い、希望や自己決定が出来るような自由な環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた暮らし、また、希望に沿った楽しみある暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれ、散髪などご本人様の希望を聞き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事行為などの出来る事に参加して頂き活性化を図りながら、楽しく食事ができる様支援している。	季節感のある食事を心がけて食材を購入している。差し入れ野菜を使うこともあり、メニューは前日に作成している。メニューは利用者の希望を取り入れ、家族の協力で外食をしたり、利用者は出来る範囲で野菜のカットや皮むき、下膳を手伝い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事を把握し、バランスを考えたメニューで変化のある食事を提供している。また、摂取量の記録により健康状態を維持できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人様の出来ない事を介助しながら歯磨き、義歯洗浄。夜間は義歯消毒を行うなど口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせた声掛けやトイレ介助を行い、ご本人様が出来ない事だけを介助する様に努めている。排泄のパターンで意識した支援によりおむつ使用を減らすようにしている。	トイレでの排泄を目標に支援している。食事や入浴の前などの定時誘導のほか、そわそわするなど動作や仕草を見て声掛け誘導に努めている。立位が出来るかどうかなど本人の状態に合わせた下着の選択も支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に配慮した腹筋や運動に参加して頂いたり、食事では乳製品や果物を摂ったりして便秘に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表のチェックを確認しながら、楽しく入浴して頂くよう配慮して、清潔維持の支援に努めている。	夏場はシャワー浴を含め毎日入浴を支援している。嫌がる場合は清潔に保つため、薬を付けるからと理由づけるなど、週3～2回の入浴に取り組んでいる。菖蒲湯やユズ、リンゴを使った季節の湯や機械浴の出来る温泉に出掛けて入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯には、一人ひとりの身体の状態を見ながら、体操や歌などのレクに参加して楽しんで頂き、メリハリを持つことで夜間はゆっくり休んで頂くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬内容を理解しようとしている。服薬介助では特に注意を払い事故を起こさないように努め、処方薬の変化があった場合は主治医にしっかり情報を伝え、病状の変化を見ながら適正な対応を行える様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様から生活歴や馴染みの環境を聞き家事行為等の役割や楽しみが実行できる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等でドライブへ出掛けたりしている。日常的には玄関先で外の空気に触れたり、花壇などを見て、季節の風を感じる様に支援している。	天候の良い日は毎日、庭先で日光浴を楽しみ、月に数回は近所を散歩している。家族の協力で買い物や外食、一時帰宅などを楽しみ、近くの公園や逢瀬公園、開成山での花見や紅葉狩りを兼ねた温泉に出掛けたり、楽しい外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解を得て、トラブル防止から所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を送る環境は整えてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる壁飾り等、一緒に作成し心が和むように配慮している。また、室温、湿度は年間通して確認し、居心地の良い空間を提供できるようにしている。	利用者の手作りおひな様や室内に張る壁飾り作品を飾り付けるなど季節を感じる工夫を行っている。共用空間は利用者がストレスが無いよう温度を一定に保てるようエアコンや加湿器を使用し、窓からの光量もカーテンで調整するなど環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、遠慮なく自由にゆったり過ごせるようにテーブルの位置や配席など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの物を置いたり、好みに合わせた配置など居心地が良く安心できる居室として配慮している。	居室には着替えやタオルを収納する整理ダンスを持ち込み快適に過ごせるようしている。壁には家族の写真や事業所での生活を撮影した写真、レクリエーションで作成した塗り絵の作品を思い思いに飾りつけ本人好みの部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の気付きを大切に、ヒヤリハットや改善すべき事を拾い出している。そして、安全な環境と自立した生活支援に職員一人ひとりが知恵を出し工夫を重ねている。		